

## ③ 予算に反対!

市民と語る会は25年度の一般会計予算に反対しました。評価できるものも勿論あるのですが、経常収支比率が90%を超える中、余りにも無謀な事業が多すぎる、というのが反対の大きな理由です。

市民税が落ち込んでいるのは、構造的な問題です。団塊の世代が退職し、若い人たちは非正規雇用が多くなってきているのですから、個人市民税がどんどん落ちていくのは当たり前なのです。それでも、若い人たちに魅力ある新座市を目指し、生産者年齢人口を増やしていかなければなりません。

そういう視点で見ていくと、「観光新座」は勿論アウトだし、新座駅南口が終わってもいないのに、北口の区画整理(128億)をスタートさせ、新座駅西側の大和田23丁目の区画整理までも同時にやろうというのは大アウトです。その上、市庁舎を建て替え、地下鉄12号線を延伸し、そして保谷・朝霞線を27mで2国道54まで建設しようというのですから、どうかしています。その上、29万平米の借地を買い取り、橋梁や下水道の耐震化などはやらなくては行けないのですから、小学校の算数でも無理が見えてきます。

一方で200名を超える待機児童の解消や、学童保育室の大規模化解消、放射能対策は全く不十分です。市長・議長・教育長の公用車にかかる経費は年間1500万以上。一方で23校の小中学校の先生達から徴収する駐車料金は年間800万。そんなことをしている市は県内で3市しかありません。先生達のモチベーションを下げてどうしようというのでしょ。市長がどうしても自分で運転したくなければ、タクシーを使えばいいのです。自分たちは市民の税金で高い公用車に乗り、先生達には「財政難なんだから月に1500円くらい我慢しろ!」という神経が分かりません。

「観光新座」から「教育新座」にシフトすれば、若い世代が来てくれる可能性があるのですが、観光や大型事業で借金が増えていく新座市では若い人たちは敬遠されてもしょうがありませんね。

2013年3月31日発行



3月10日の川掃除ではリヤカーが大活躍しました。4月の川掃除は28日の予定です。栗原1丁目公園に9時集合です。

## たかやんのプロフィール



本名たかむらともや。教育を語らせたら、止まらない男。新宿区立西戸山小中学校。都立石神井高校を経て北海道大学へ。新座五中・六中・二中で21年間理科、数学、国語、英語などを教え、学級通信を毎日発行する。

五・六中の男女硬式テニス部を率いて、関東大会5回、全国大会2回優勝。

2012年2月、2218票で当選。新しい会派「市民と語る会」を結成。文教環境常任委員長。

2004年から議員日記は9年2ヶ月毎日更新し、議会報告を毎月発行している。

毎月、ひばりヶ丘、東久留米、保谷、新座、志木、等で5時半過ぎから駅立ちをしている。

「たかやん塾」塾長。小中高生の脳を鍛えることに生きがいを感じている。

テニスマンである。現在、糖尿病と格闘中。ランニングとトレーニングに燃えている。

好きな女優はハン・ヒョジュ。母と一緒に韓国ドラマを見ながらよく泣く男である。

たかやんの応援団 で 検索

## ③ 日米地位協定

1952年、旧安保条約に基いて出来たのが日米行政協定です。簡単に言うとアメリカ軍が「望むだけの兵力を望む場所に望む期間駐留すること」が目的の協定です。その後、1960年に新安保条約締結に伴い「日米地位協定」と名前を変えましたが、中身は同じです。これがあるから、戦後70年も経っているのに、オスプレイは自由に日本の空を飛び回り、沖縄の基地問題は解決せず、米兵は罪を犯しても裁かれないのです。反対に日本の飛行機は首都東京の上空を自由に飛べないのだからどうかしています。日本の空は米軍が支配しているのです。そんな馬鹿な・・・それが日米地位協定です。日本国憲法があったから、日本の若者は戦争に行かずに済み、日本の経済は発展しました。その裏で、戦後70年もアメリカにいよいよされている日本があり、何とか日本の富を吸い取りたいアメリカがあるのです。郵政民営化もTPPもアメリカが仕掛けてきたことです。安倍さんは無理やり物価を上昇させ、消費税を増税し、TPPに参加し、原発を再稼働させようとしているのですから、どうかしています。今の憲法はアメリカに押し付けられた憲法ではありません。その力をしながら、まんまとアメリカを欺いてきた憲法なのです。僕達は日本の若者を守ってきた憲法をこれからも守らなくてはなりません。占領軍が作った憲法だから変えるというのなら、まず日米地位協定を廃止することです。



僕のトレーニングは病気と戦う為にスタートしましたが、それだけではありません。僕にはテニスで日本一になる夢があります。教え子達にできて、僕にできない訳がない。そう思って、長久保先生とトレーニングをしているのです。

## ③ ひまわりプロジェクト

4月10日(水)に福島市に行ってきました。特定非営利法人シャロームの「ひまわりプロジェクト」を学び、そして支援をしようと、新座の仲間たち12人で車2台に乗り込みました。僕の車には電動車椅子のKさんが乗りましたので、僕は初めてリフトの操作もしました。



ひまわりプロジェクトは放射能汚染でひまわりを栽培出来なくなった福島市の仲間達の為に、ひまわりの種を全国の仲間達が代わりに育て、育ったひまわりから種を収穫し、再び福島に送り返すというプロジェクトです。昨年、全国の仲間へ送った種は15キロ、それが、戻ってきた時は2トンにもなっていたというのですから驚きです。シャロームではその種から「食用ひまわり油」を製造し、販売しています。その収益は全て福島の子供達の養生などに使われています。

それくらい福島の汚染の状況は深刻なのです。農業を捨てる気はないが、今の状態では農作物は作れない。作っても売れない・・・」その言葉が印象的でした。「除染は10%もいってません。」周りが山だと、全く除染できないんです」という悲痛な声も聞きました。福島には「原発離婚」という言葉が出来てしまったそうです。広島や長崎を忘れてはいけないように、福島も決して忘れてはいけないのです。

チェルノブイリ級の重大事故を東電という一企業に任せている日本。日本の頭脳を結集すれば、汚染水の問題だって解決できるでしょう。もう東電の社長が頭を下げてどうかなる問題ではないのです。「福島を返せ！」と言いたいです。東電より先、福島を守る。そういう国であって欲しいです。

読み終わりましたら、お知り合いの方にさしあげてください。m(\_\_)m